

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	プレップwithひすか園田店		
○保護者評価実施期間	R7年 9月 20日	~	R7年 10月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	R7年 9月 20日	~	R7年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 10月 25日		

○ 分析結果

強みと今後の取り組み**1. 環境・体制整備**

<強み>

こどもの活動スペースが十分に確保され、清潔で快適な環境が維持されている。

バリアフリーや構造化された環境整備など、こどもが安心して過ごせる空間づくりが意識されている。

職員配置も概ね適正で、支援体制が安定している。

<工夫・意識的取組>

JR尼崎駅前までのピストン送迎を実施し、保護者の利便性を高めている。

清潔な環境維持や動線の工夫により、児童が安心して活動できる空間づくりを継続して行っている。

<さらなる充実に向けた取組>

障害特性に応じた空間調整や、感覚面への配慮（照明・音環境など）を継続的に見直す。

職員配置の適正化を引き続き検証し、支援の質向上を図る。

2. 適切な支援の提供

<強み>

個別支援計画の作成において、児童と保護者のニーズを踏まえた支援内容が検討されている。

活動プログラムが固定化されず、児童の特性や興味に応じた柔軟な内容が実施されている。

<工夫・意識的取組>

放課後等デイサービスガイドラインに基づく本人支援・家族支援・移行支援のバランスを意識した支援を実施。

定期的なミーティングで児童ごとの支援方法を職員間で共有し、支援の一貫性を保っている。

<さらなる充実に向けた取組>

地域との交流（児童館や放課後児童クラブとの連携）を拡大し、社会性育成の機会を増やす。

支援の成果を可視化し、児童や保護者が「成長を実感できる」ようなフィードバック方法を工夫する。

3. 保護者への説明・連携

<強み>

事業所利用時の説明（運営規程、支援内容、費用等）が丁寧に行われている。

連絡帳や口頭でのやり取りなど、保護者との意思疎通を重視している。

SNS・ホームページ等で情報発信を行い、透明性を確保している。

<工夫・意識的取組>

保護者からの要望に応じて、連絡帳や日々の活動記録を柔軟に開示し共有している。

定期的な面談により、児童の成長や課題について共通理解を図っている。

<さらなる充実に向けた取組>

保護者間交流の場（保護者会・きょうだい支援イベント等）を企画し、家庭支援を強化する。

連絡帳の内容をより個別性のある記載に改善し、児童の特性や日々の成

4. 非常時等の対応

<強み>

事故防止・緊急時対応・感染症対応等のマニュアルを整備し、職員への周知が行われている。

事故や怪我発生時には速やかな報告・説明が実施されている。

<工夫・意識的取組>

定期的な避難訓練や想定訓練を通じて、安全管理意識の向上を図っている。

<さらなる充実に向けた取組>

保護者への訓練実施報告や安全計画の共有を強化し、安心感の向上につなげる。

地域防災機関等との連携を検討し、緊急時の支援体制をより実践的に整備する。

5. 満足度

<強み>

児童が安心して通所し、活動を楽しみにしているという回答が多い。

支援内容への満足度が高く、保護者からの理解・信頼を得ている。

<工夫・意識的取組>

児童の特性に応じたグループ設定や環境調整により、集団に馴染みやすい支援を行っている。

<さらなる充実に向けた取組>

児童一人ひとりの「できた」「成長した」を実感できるよう、評価・共有方法を工夫する。

支援内容の見直しを定期的に行い、満足度維持と質の向上を両立させる。

弱みと今後の取り組み

I. 環境・体制整備に関する課題

【弱み】

・地域や他事業所との交流機会が少なく、社会参加の場が限られている。

【課題の要因】

・安全面・人員配置面から、地域連携や外出活動の企画に制約が生じている。

【改善に向けた取組・工夫】

・地域行事・児童館・放課後児童クラブとの連携を計画的に推進し、地域交流や社会体験の場を広げる。

・外出時の安全対策マニュアルの見直しと訓練を実施し、活動範囲の拡大を図る。

II. 適切な支援の提供に関する課題

【弱み】

・専門的支援にはらつきがあり、子どもの特性理解や個別支援内容の深度に課題が見られる。

・支援計画と実施内容の整合性に一部改善の余地がある。

【課題の要因】

・新人職員の増加により、療育方針や評価方法の共有が十分でない。

・定期的なケース検討や支援計画見直しの仕組みが形式的になりがち。

【改善に向けた取組・工夫】

・事例検討会を月1回実施し、支援計画と実践内容の整合性を確認する。

・療育スキル研修やOJTの体系化により、支援の質と一貫性を向上させる。

・評価指標に基づく振り返りシートを導入し、児童ごとの成長や課題を客観的に把握できるようにする。

III. 保護者との連携・家族支援に関する課題

【弱み】

- ・連絡帳の内容が画一的で、個別性に欠けるとの指摘があった。
- ・保護者会や家族支援プログラム等の実施が少なく、交流機会が不足している。

【課題の要因】

- ・職員の多忙化により、保護者対応の時間が十分に確保できていない。
- ・家庭支援を担当する職員体制が整っていない。

【改善に向けた取組・工夫】

- ・保護者要望に応じた「日々の記録開示」や個別面談の充実を図る。
- ・ペアレント・トレーニングや家庭支援講座の定期開催を検討する。
- ・保護者会・きょうだい支援イベントを年間計画に組み込み、家族支援を強化する。

IV. 非常時対応・安全管理に関する課題

【弱み】

- ・避難訓練や防災訓練の実施頻度が低く、職員・保護者への周知が十分でない。

【課題の要因】

- ・通常支援業務が優先され、訓練やマニュアルの更新が後回しになっている。

【改善に向けた取組・工夫】

- ・年2回の避難・防災訓練を計画的に実施し、マニュアルの実効性を高める。
- ・感染症・事故時対応マニュアルを改訂し、全職員への共有と確認を徹底する。
- ・訓練記録とフィードバックを職員会議で共有し、改善点を随時反映させる。

V. 総合的な課題と今後の方向性

【弱み・課題】

- ・一部児童に不安の様子が見られ、安心して通える環境づくりに更なる工夫が必要。
- ・支援成果の「見える化」が不十分であり、保護者へのフィードバックに改善の余地がある。

【改善に向けた方向性】

- ・児童一人ひとりの安心感を重視した関わりや環境調整を強化する。
- ・支援成果を写真・記録・振り返りシート等で可視化し、保護者への共有を定期的に行う。
- ・職員間の連携を密にし、支援の統一化と療育の質向上を継続的に推進する。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	プレップwithびすか園田店							公表日	R7年11月14日		
		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	利用児童数	33	回収数	18
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	0	0	0					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	13	2	0	2	多店舗では実施している送迎がこの店舗にはない	JR尼崎駅前までのピストン送迎を実施			
	3	上記正問は、ここにわざわざ構造化された環境になつていていますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、パリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	2	0	2					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	0	0	0					
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援を受けられていると思いますか。	11	4	0	3					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13	2	0	3					
	7	子どものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14	2	0	2					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13	2	0	3					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	0	0	2					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	0	0	2					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	3	2	5					
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18	0	0	0					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	0	2	0					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	3	2	3					
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができるていると思いますか。	12	4	2	0	連絡帳が本児についてではなくコビー&ペーストに感じる。	JR尼崎駅前までのピストン送迎を実施			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	2	2	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15	1	0	2					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	7	3	4					

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	2	0	4		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	0	1	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者にに対して発信されていますか。	16	0	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されているだと思いますか。	15	1	0	2		
非常時等の対応	23	事業所では、手取扱マニュアル、緊急時対応マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	1	0	5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	1	0	7		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	0	0	4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	0	0	2		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	18	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	17	1	0	0	・楽しみに通っている ・まだ不安なところがある様なので ...	集団に馴染みやすい環境づくりをさらに心掛け、児童のニーズに合った支援や関わりを提供する。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	2	0	0	大変満足しています。	支援内容には一定の理解と納得が得られているが、個々のニーズにより寄り添った支援や、成果が実感できるようなフィードバックの工夫が求められ

		公表	事業所における自己評価結果			
事業所名	プレップwithひづか園田店				公表日	R7年11月14日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		利用定員に応じて十分な活動スペースを確保し、子ども同士の距離が保てるよう動線を工夫している。	成長や年齢層の変化に応じ、スペースの再配置や家具の見直しが必要である。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	子どもの状態に応じて職員の配置を柔軟に見直し、支援が滞らないよう体制を整えている。	急な欠勤時のバックアップ体制をより強化する必要がある。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	教室を用途別で作り、仕切りで区切り、子どもが理解しやすい構造化された環境を整備している。	施設のある2階に上がる方法が階段しかない。車いすの児童の来所時には職員が介助できるよう環境を整える。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日の掃除と換気を徹底し、心地よく過ごせる環境づくりを行っている。	空調の効率改善や臭気対策にさらなる工夫が必要である。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	感情のコントロールが難しい子どもが安心して過ごせる個別スペースを設けている。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	2	全職員が業務改善の意識を持てるよう、月例会議でPDCAの振り返りを行っている。	業務について振り返りの時間が多く取れていらない。月例会議にて実施する。改善結果の「見える化」を進め、職員間	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	保護者アンケートを実施し、意見を次年度の運営方針に反映している。	回答率向上のため、アンケート方法の多様化が望ましい。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員ミーティングで現場の意見を吸い上げ、業務改善につなげている。	新人職員の意見も反映できる仕組みを強化する必要がある。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3	外部評価を受けた際の指摘事項を職員間で共有し、改善計画を作成している。	第三者による外部評価の機会が少ない。機会を設ける必要がある。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		年間研修計画を立て、外部研修や法人内研修を通じて職員の資質向上を図っている。	外部専門家によるケーススタディ型研修を増やす必要がある。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムを事前に作成・掲示し、利用者・保護者が把握しやすいようにしている。	プログラムの目的や成果を振り返る仕組みを強化する必要がある。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		児童発達支援管理責任者と心理師が中心となり、アセスメントを丁寧に実施している。	標準化ツールの使用頻度を高め、客觀性を向上させる必要がある。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	支援計画作成時には職員全員で意見交換を行い、子どもの最善の利益を考慮している。	児童の様子に応じて、職員の支援の方向性を常に話し合い統一する必要がある。職員の専門分野ごとの意見をより反映する	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	支援計画を職員間で共有し、統一した支援を実施している。	児童の様子に応じて、職員の支援の方向性を常に話し合い統一する必要がある。新規職員への計画共有をより効率化する	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	標準化されたチェックリストと日々の観察を組み合わせてアセスメントを行っている。	チェックリストを活用する局面が少ない。評価結果を保護者とも共有し、支援の透明性を高める必要がある。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインを踏まえ、個別性と具体性を重視した支援内容を設定している。	支援内容の優先順位付けを明確にし、個別性をさらに強化する。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		活動プログラムはチームで検討し、多様な視点を反映している。 また児童を交えてミーティングを行い、プログラムの企画・立案をしていく。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		活動内容が固定化しないよう、季節や行事に応じて定期的に変更している。	活動内容の評価方法を明確化する必要がある。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		子どもの状態に合わせて個別活動と集団活動を組み合わせて支援している。	個別支援の時間確保が課題であり、職員の配置調整が必要である。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援開始前に全員でミーティングを行い、支援内容と役割を確認している。		
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後に振り返りを行い、課題や成功事例を記録している。	振り返り内容を次回計画へ反映する仕組みを明確にする。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		支援記録を毎日記入し、後日の検証と改善につなげている。	ICT化による効率化をさらに進める必要がある。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的なモニタリングにより、必要に応じて支援計画を見直している。	モニタリング結果を共有する時間を確保する必要がある。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5		「4つの基本活動」をバランスよく組み合わせ、発達に必要な支援を提供している。	活動のバランスを定期的に点検する仕組みを設けたい。	
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		活動の中で子どもが自ら選択できる場面を意図的に設け、自己決定力の育成を図っている。	選択肢の提示方法を改善し、より主体性を促す必要がある。	

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		サービス担当者会議には、対象児童をよく理解する担当職員が参加している。	議事録共有のスピードを向上させる必要がある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		医療・教育・福祉など関係機関と連携し、必要時に情報共有を行っている。	情報共有ツールの統一が課題である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		連絡調整について、連携を密にしていく。	電話連絡、訪問回数を増やす必要がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3	相談支援、保護者からの情報を丁寧に引き継いでいる。	今後、前利用機関から引き継ぐ必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3		卒業の実績はないが、卒業後の移行支援として、次の事業所へ支援記録を提供する準備を行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3		現状できていない。専門職から助言を受け、職員研修に活かしたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	4		児童館や放課後児童クラブとの交流を通じて地域とのつながりを深めたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3		自立支援協議会へ積極的に参加し、地域支援体制の充実に貢献したい。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		特筆すべきことがあった時またはモニタリング時に保護者とコミュニケーションを取り、子どもの様子を共有している。	共通理解を深めるための個別面談機会を増やす必要がある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	グループ全体として家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）を実施している。	園田店単独での実施を検討する。参加促進のための周知強化が必要である。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時や更新時に運営規程・支援内容を丁寧に説明している。	初回説明時の資料をさらに分かりやすくする。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		支援計画作成時に保護者や本人の意向を丁寧に確認している。	本人の意見を直接聞く機会を増やす必要がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		支援内容を説明し、保護者から計画への同意を得た上で実施している。	説明内容を文書化し、再確認できる仕組みを作る。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者からの相談に丁寧に対応し、必要に応じて面談を実施している。	相談内容の記録と共有をより徹底する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	2	グループ全体として保護者会を開催し、家庭間のつながりを支援している。	園田店単独での実施を検討する。参加者のニーズに応じた内容に改良する必要がある。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情受付窓口を明示し、迅速な対応と職員間での共有を行っている。	対応後のフィードバック体制を強化する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		ブログやSNSで活動報告を発信し、保護者との情報共有を強化している。	発信頻度と内容のバランスを再検討する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報保護方針を明確化し、全職員が遵守している。	定期的な職員研修を継続して実施する。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		視覚支援ややさしい言葉を用い、意思疎通を図っている。	支援ツールの更新頻度を上げる必要がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		地域に開かれた運営を心がけている。	地域行事への積極的な参加が今後の課題である。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルを整備し、定期的に訓練を実施している。	マニュアル内容の定期見直しが必要である。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画（BCP）を策定し、災害時対応訓練を実施している。	新職員へのBCP教育が課題である。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		利用開始前に医療情報や健康状態を確認し、緊急時対応を共有している。	緊急時対応マニュアルの定期更新を行う必要がある。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		アレルギー児について医師の指示書を基に安全な対応を行っている。	代替食の提供方法を改善する余地がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、事故防止と職員研修を継続的に実施している。	安全計画の実践度をチェックする体制が必要である。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	家族にも安全対策を説明し、連携体制を取っている。	プログラム、イベントにおける安全対策の詳細について、保護者への周知の徹底はできていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット事例を共有し、再発防止策をチームで検討している。	再発防止策の実施状況を定期的に確認する。

	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止に関する職員研修を年1回以上実施している。	事例検討を交えた実践的内容に改善する必要がある。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束の判断基準を明文化し、事前説明と同意を徹底している。	定期的に方針を見直し、職員全体への再周知を行う必要がある。